報告

平成30年度地域医療を守る住民活動懇談会

常任理事・地域医療部長　伊藤　利道

平成31年２月15日（金）、札幌グランドホテルで、平成30年度地域医療を守る住民活動懇談会を開催した。当会では平成21年から様々な住民活動を行っている団体に集まっていただき、情報交換を行っている。平成30年度は12団体19名に参加していただいた。

はじめに北海道庁地域医療課・小川課長より、「医療機関・住民交流推進事業費補助金」について説明が行われた。この補助金は道内の地域住民・団体等による地域の医療機関を支える取り組みを推進することで、地域医療の確保・地域の活性化を図ることを目的にしており、地域医療を守るための講演会等開催事業、地域住民と医療機関（医療従事者）との交流事業、住民団体の活動を推進するための普及啓発事業などを対象としている。補助基準額は400,000円まで、補助率は２分の１以内、補助年限は３年間となっており、積極的に活用してもらいたいとの説明があった。

地域医療住民活動懇談会団体一覧（24団体）

市町村	団　体　名
松前町	松前病院「傾聴ボランティア」、「キルトサークル」、「絵手紙教室」
千歳市	スマイルハートリー
千歳市	ちとせの介護医療連携の会
京極町	ひまわりクリニックサポーターの会
岩内町	地域医療を考える会
赤平市	赤平市社会福祉協議会ボランティアセンター
滝川市	滝川市立病院「菜の花」応援団
砂川市	砂川市立病院ボランティア
深川市	ボランティア・わかくさ
白老町	白老町立病院を守る友の会
浦河町	浦河赤十字病院を応援する会
士別市	士別市立病院応援隊
留萌市	看護学校を創ろう（留萌がんばるかい）
羽幌町	地域医療を守る会「折り鶴」
北見市	北見赤十字病院の明日を考え支援する会
芽室町	公立芽室病院をみんなで支える会
名寄市	名寄市立総合病院サポートクラブ
名寄市	名寄市風連国民健康保険診療所サポートクラブ
別海町	別海町地域医療サポート隊「医良同友」
羅臼町	羅臼の医療を支える会（RISの会）
本別町	本別町病院ボランティア運営会議
根室市	ねむろ医心伝信ネットワーク会議
根室市	根室の地域医療を守る連絡会
稚内市	地域医療を考える稚内市民会議

次に「名寄市立総合病院サポートクラブ」「白老町立病院を守る友の会」よりそれぞれ活動報告がなされ、引き続き、三笠市医師会・川﨑会長からは「南空知医療圏の継続性を鑑みた三笠市の地域医療を考える検討会」で出された三笠市に対する提言が紹介された。

懇談会の様子

その後、「地域医療を守る住民団体・地元自治体・医師会の関わり方について－現状と課題－」をテーマにフリーディスカッションを行った。

［主な意見交換の内容］

〇黒坂コーディネーター（赤平市社会福祉協議会ボランティアセンター）：当団体では、あかびら市立病院で使用するタオルを畳んだり、院内の案内と「ぼらん亭」というボランティアによる食堂を運営している。なんとか赤字になることなく、今のところ運営できており、11年間続いている。しかしながら、食堂を担当しているスタッフが高齢化していることもあり、次の担い手をどうするかという問題がある。

〇小職：会員の高齢化はどこの団体も課題として耳にしているところである。

〇重山副会長（白老町立病院を守る友の会）：白老町は財政危機を理由として、町立病院を５年前に廃止する方針を打ち出し、その後、苫小牧市保健センターとの交渉が始まり、その交渉の中で、平成29年の11月６日には病床を廃止し、無床診療所にするという方針が急遽打ち出された。これは我々としてはとても容認できる内容ではない。町立病院を守るという立場をとってきた町が急遽このような方針を打ち出してきたため、当時2,563名の町立病院存続を訴える署名を短期間に集めたことにより、年が明けてから町は町立病院として維持するとの方針へ転換した。

しかし平成30年の８月に「町立病院改築に関する地域の懇談会」が開催され、その中で2022年に町立病院を建て替えるとのことで、診療所による建て替えも有り得るという内容であった。これでは町民の要求には応えられない。

また、平成28年に町民意識調査をした際、町立病院を中核とする地域医療の充実を求めるものが85.9％あった。こういう強い要求がある中での診療所化という方針には非常に危機感を抱いている。

〇小職：白老町では、住民の立場として病院を残しておきたい、三笠市の場合は、市立病院の院長先生を含む検討委員が、診療所化してはどうかとの提言を出されている。

〇但馬総務担当（白老町立病院を守る友の会）：白老町長が平成30年11月末までには、白老町立病院を診療所へ変更するか、病院として残すかの結論を出

すとのことであった。

しかし、このことについて、同時期に北海道庁からのヒアリングが実施されたことにより、結論が先延ばしになり、平成31年２月末まで待ってほしいとのことであった。本日、北海道庁の方たちもお見えになっているので、ヒアリングの内容について、伺うことができるとありがたい。

〇小川課長（地域医療課）：北海道庁実施のヒアリングについては､当地域医療課管轄のものではなく、別の課での管轄であると思われるので、把握していない。

〇鈴木町議会議員（ひまわりクリニックサポーターの会）：７年前、４人いた医師が院長１人となったため、365日オンコール体制が無理な状況にあり、病床維持も厳しい状況にある。医師確保に１年以上取り組んでいるが、病床があると医師が来てくれない。当地域から20分圏内に倶知安厚生病院があることは幸いである。しかしながら、人口3,000人ほどの町ではあるが、今後ターミナルケアをどうしていったらよいか悩むところである。医師不足が大きな課題である。

〇鳥本会長（公立芽室病院をみんなで支える会）：公立芽室病院でも昨年（2017年）、内科医が６人から３人へ減少したことにより、病棟の再編が実施され病床は150床から107床に減少された。

現在、内科の常勤医は２人体制であり、病床の稼働率は70％近くにはなっているが３階の病床が全て休床の状況である。また、今年の11月には産科医も退職してしまった。芽室町では町長が交代したが、医師不足解消を主な課題として、新たに検討をスタートさせるところである。

〇森事務局長（看護学校を創ろう［留萌がんばるかい］）：私は、「公立芽室病院をみんなで支える会」が発足される前、地域医療を守る住民活動の先駆けということで、講演を依頼され引き受けたことがある。そのとき感じたことは、こういった地域医療を守る活動というものが、お年を召した方にとっては特に精神的な支柱になるということを感じた。

〇工藤会長代理（羅臼の医療を支える会）：当地域も白老町と同じ状況であったが、現実的に病院を維持していくことができるかイメージして検討を進めた。その結果、現在は知床らうす国民健康保険診療所として社会医療法人孝仁会が指定管理者となって運営を行っている。

〇土井会長（浦河赤十字病院を応援する会）：当応援する会では、医師・看護師が浦河赤十字病院に来てもらうための勧誘活動を主に行っている。また地域懇談会を開催し、住民に対し浦河赤十字病院の院長や事務長から病院への正しい受診の仕方などの話をしてもらう機会も設けている。

〇小林会計担当（浦河赤十字病院を応援する会）：日高管内は７つの町があり、地域の唯一のセンター病院は浦河赤十字病院である。苫小牧市、帯広市へは車で２時間近くかかる。通勤で通っていただける看護師の確保ができないため、地域内で看護師を確保しなければいけない。また現在、苫小牧市の病院から浦河赤十字病院へ、産婦人科医を派遣してもらっているが、この派遣がなくなると日高管内では子供を産めない状況となり、人口がますます減少していくこととなる。浦河赤十字病院は、浦河町だけでなく、近隣町村も含め大きな要（財産）である。そこで町民目線で何とか支えていけないかということで、当応援する会を設立した。町内に５つある個人の医療機関にも当会の活動に賛同いただき、病院説明会などの活動や医師および看護師が当地域へ来てくれるような町にすることを検討しているところである。今後はえりも町や様似町でも懇談会等を開く予定である。

〇小職：介護について、千歳の状況を教えて欲しい。

〇佐藤副会長（ちとせの介護医療連携の会）：千歳市の人口は約10万人で、医療と介護を連携することを目的として当会を設立した。どうしても介護職から見ると医療は敷居が高いと感じているため、お互い歩み寄っていただけるような橋渡し的な取り組みを行っている。急性期を担う市立千歳市民病院を中心として、地域の医療機関・介護施設の役割を当連携の会が把握し､住民への情報提供等を行っている。

〇小職：最後に北海道庁としての感想をうかがいたい。

〇小川課長（地域医療課）：北海道庁としては、地域ごとの今後10年、20年後の人口構造がどのように変化していくのかを把握することが重要であると思っている。人口統計はかなり正確なものとなっており、高齢者が増える地域もあれば、逆に減っていく地域もあることがわかる。また統計等から、今後どのような医療の内容を必要とされる高齢者が増えていくのかも想定していかなければならない。本日は医師確保についての話題が中心であったが、看護師もどのように確保していくか、こちらも非常に大きな課題であると思う。このようなことを踏まえながら、地域の実情にあった、地域住民の皆様が納得できるようなことを医療関係者、または住民の方々としっかり話合いながら解決していくことが非常に大事であると思っている。

〇長瀬会長：人口構造、地域の事情を把握し、工夫して取り組んでもらいたい。また、町内会ももっと機能させるべきであると思っている。人づくり・町づくりについて医師会としても協力していきたい。

〇藤原副会長：京極町においてもその地域の住民の地域の医療機関への受療率が低い。地域の医療機関を存続させるためにも地域の医療機関を受診してもらいたい。

◇

以上のように、活発な意見交換が行われた。ご出席いただいた各住民団体の皆様に感謝申し上げます。